

平成30年度 学校研究

【研究テーマ】

新学習指導要領を踏まえた授業づくりー単元展開案の活用ー

平成29年4月に新しい特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が公示され、改訂のポイントとして、知的障がいのある児童生徒の教科指導の充実が挙げられています。そこで、本校では、学校研究のテーマを「新学習指導要領を踏まえた授業づくりー単元展開案の活用ー」とし、1年次である今年度は、新学習指導要領を踏まえて、単元展開案を作成し授業を実践することを通して、新学習指導要領で示されている各教科の目標・内容、学習評価の3観点への理解を深めたり、課題を整理したりしていきます。また、作成された単元展開案を整理することで、「何を」「どのように学ぶか」といった適切な指導のあり方を蓄積していきます。



研究方法(1年次)

(1)小・中・高の縦割りで研究グループを編制
国語、算数・数学、音楽、体育・保健体育、職業、家庭

(2)新学習指導要領の各教科の目標や内容について確認

(3)「授業づくりのワークシート」を使った協議、授業構想、単元展開案の作成

平成30年度「特別支援学校教科指導充実事業」

実施日：平成30年7月2日(月)

講師：植草学園短期大学 教授 佐藤慎二先生

演題：「自立と社会参加を目指す教育のために」

～「教科別の指導」における支援・授業づくりを中心に～

講師に佐藤慎二先生をお招きし、手遊び等、日々の児童生徒とのかわりの中で実践できそうなミニネタを盛り込んでいただきながら、楽しい雰囲気の中でご講演いただきました。講演の中では、知的障がい

教育における教科指導について、自立と社会参加を目指すという視点から、「楽しさ・やりがい・必然性」をキーワードに、子どもたちにとって「何のために」その学習を行うのかという目的を明確にし、実際性と社会性を重視した授業づくりの大切さを学びました。また、各教科における「目標と評価の設定、目標達成につながる授業づくりの工夫」について、具体的に学ぶことができました。今回の講演の内容を踏まえ、今後、さらに新学習指導要領の各教科の内容についての理解を深め、児童生徒の生活との結びつきを目指した授業づくりについて、各教科グループで、「児童生徒に応じた目標と評価の設定、単元展開案の具体的な活用方法」について検討していきたいと思っております。

